

バスでたずねる家康ゆかりの地 ～八街の歴史に触れながら～

◎学習ねらい 日頃、行けそうで行けない、知ってそうで知らない家康ゆかりの伝承や地域を、バスで訪ね始めて知る驚きや発見をとおして、地域の歴史の再認識・再発見を促すとともに、放映中の大河ドラマを楽しく視聴できるように開催した。家康ゆかりの地を身をもって訪ねるという「体験」によって、地域の歴史に関心を抱く契機となり、地域をより身近に感じ郷土への愛着を育む一助とする。

◎実施日・場所 令和5年6月29日(木)八街市～千葉市（御成街道沿い各所）

◎参加者 13名（定員15名のところ2名欠席）

◎講師 教育委員会教育部 社会教育課 佐藤晃雅先生

【おもな行程】御茶屋御殿（宿泊等施設）→御成街道跡（風景谷の険：S字状切通）→上砂の一里塚（街道設置の塚）→びんだらいの池（家康休憩地の伝承）



◎参加者の声 講師が、事前に調べていただいたおかげで、家康の人生に踏み込んだ内容で、受講者から感心の声が絶えませんでした。また、時間の都合で、1箇所あたりの見学時間を多く取れませんでした。また、車窓からの見学についても受講者から不満が出ることもなく、むしろたくさんのゆかりの地を見ることが出来てとても良かった、という感想をいただきました。

◎成果と課題 現在大河ドラマで放映されている『どうする家康』の影響が大きく、熱心に受講されており、郷土に興味を持っている方が多いことを実感しました。

なお、受講者の継続的な学習及び地域の歴史への再認識再発見に結び付ける学習が改めて必要と感じました。